

2.pHの改良方法

土壌 pH の改良事例を下記に示すが、土づくりと投入資材に留意され極端な改良は避けることを留意して下さい。

区分	改良方法
pHが低い場合	1.目標値になるよう石灰質資材を施用します。pHを1上げるのに必要な石灰量の目安は表1による。
pHが高い場合	1.表2に示す資材を施用して、pHが基準値になるようにする。基肥に生理的酸性肥料を施用します。

pHを1上げるのに必要な石灰量の目安

表1

土壌の種類		石灰の種類 (kg/10a)		
		炭カル	苦土炭カル	消石灰
黒ボク土		300~400	280~380	240~320
黒ボク土以外	沖積土・洪積土	180~220	170~210	140~180
	砂質土	100~150	90~140	80~120

(加藤、1996を一部改変)

主な pH 調節剤

表2

資材名	混合割合	特徴と注意点
硫黄華	風乾土 100kg の 土壌 pH を 1 下げる場合 砂土： 55g 埴土： 80g 泥炭土： 240g	1.施用時によく混合する。 2.混合後、目的の pH に下がるまで 1ヶ月以上かかる。 3.微生物の活動が必要なので、混合後は 4.適度な水分と温度が必要 5.下がった pH は数年間維持される
ピートモス (育苗土)	容量比で 30%程度混合すると、pH は 0.2~1.0 下がる	・酸性を調整していないピートモスを使用する

(関東土壤肥料専技会、1996より作表)